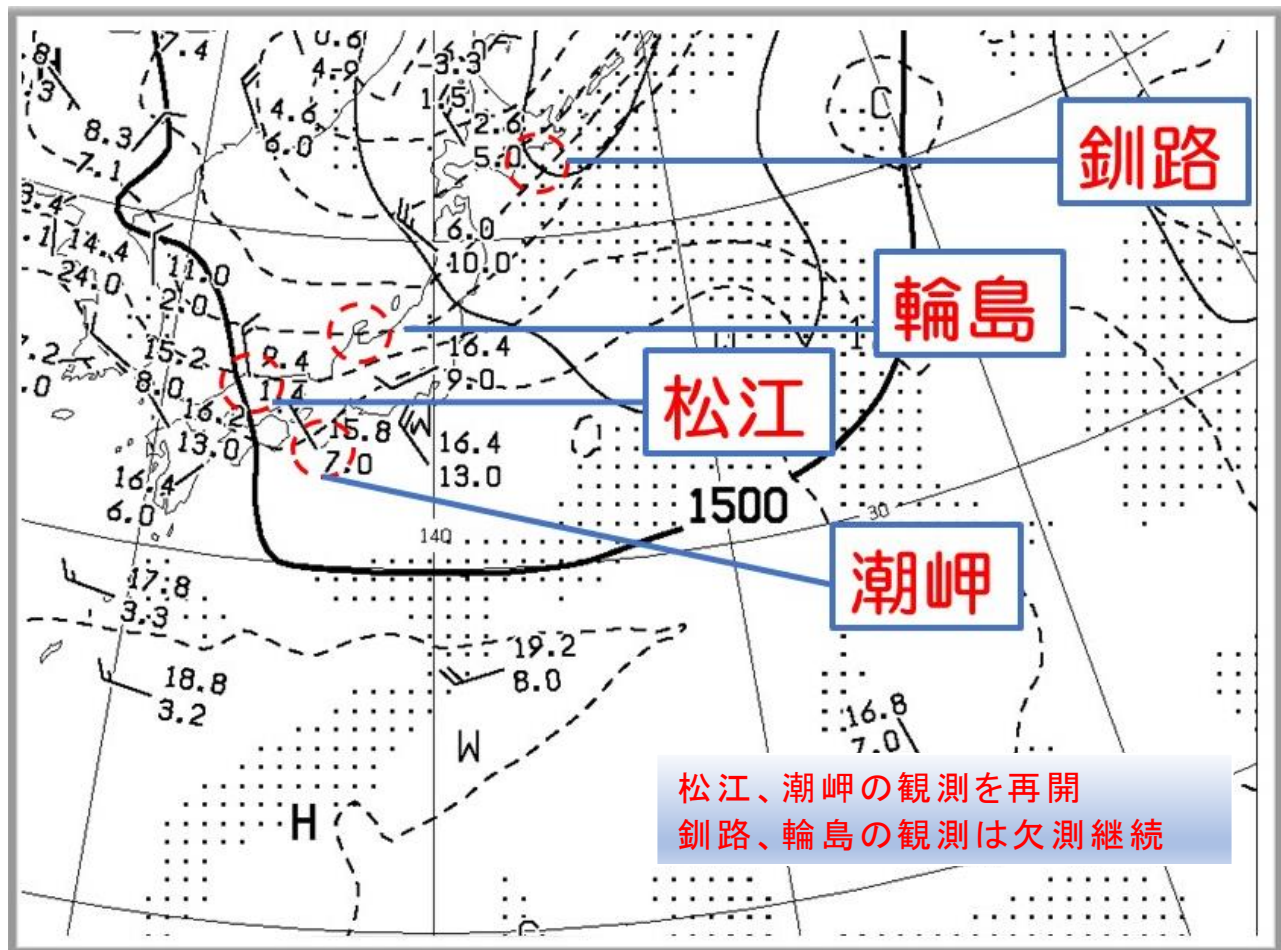


高層気象観測値の欠測地点が減少しました

今回は、[Aviation Safety ニュース ASN58-01](#)でお伝えした高層気象観測施設における観測の一部または休止に関する続報です。前回のニュースでお伝えした通り、高層気象観測施設で発生した自動放球装置（ABL）の火災を受け、同型の装置を用いている釧路、輪島、潮岬及び松江の高層気象観測は ABL による観測を休止していました。



< 2024 年 5 月 23 日 9 時より欠測地点が 2 箇所へ減少 >

その後、火災の原因が判明し不具合を改修した松江、潮岬で5月23日9時より高層気象観測を再開しました。輪島及び釧路については、火災の影響が大きいため引き続き ABL による観測を休止しますが、出水期及び厳冬期には適宜手作業による観測を実施する予定です。

これまでの経緯①

2022年2月25日20時過ぎ、無人の釧路高層気象観測施設（釧路市益浦）で火災が発生し、釧路高層気象観測点のABLと同型機を用いている3地点（輪島、潮岬、松江）について、高層気象観測を休止しました。

その後、気象庁は上記3地点の点検動向の結果、運用を再開しています。釧路については出水期（7月1日から9月30日）のみ、作業員による高層気象観測（9時）を実施していました（通常は1日2回：9時、21時）。

これまでの経緯②

2023年1月13日午前8時過ぎ、観測を再開していた3ヶ所のうち、無人の輪島高層気象観測施設（石川県輪島市鳳至町）で火災が発生し、ABLと同型機を用いている2地点（潮岬、松江）について、高層気象観測を休止しました。

その後、輪島については、1月23日から2月28日に気象庁職員を派遣し、手作業による高層気象観測を実施しました。

さらに、潮岬については出水期（6月28日から8月28日）、輪島については出水期（6月28日から8月28日）及び厳冬期（12月19日から2月19日）に作業員による高層気象観測（9時）を実施しました。

これまでの経緯③

2023年末に、消防研究センターから火災調査報告があり、水素ガス管と風船の接続部分の静電気による火花が原因と判明しました。接続部分の改修をすることで同様の火災は発生しないことを確認し、火災対策が完了した地点からABLによる高層気象観測を再開しています。

気象庁要請

航空安全会議では気象庁に対して5月15日に以下の点を要請しました。

- 釧路、輪島は近隣の空港にアプローチするために、特に重要な観測地点である
- 4地点（釧路、輪島、松江、潮岬）の1日2回観測を早期に再開すること
- 再発防止策を含めた対応について、適切な対策を諮ること

今回の情報は、私たち航空安全推進連絡会議（航空安全会議）の加盟労組である「国土交通労働組合」の気象部門から提供されたものです。民間航空で働く者と国家公務員として働く者が、航空安全のため協調して活動しているのが航空安全会議の強みです。こうした幅広い活動にご興味がある方は、所属労組を通じて私たちの活動へご参加ください♪

以上